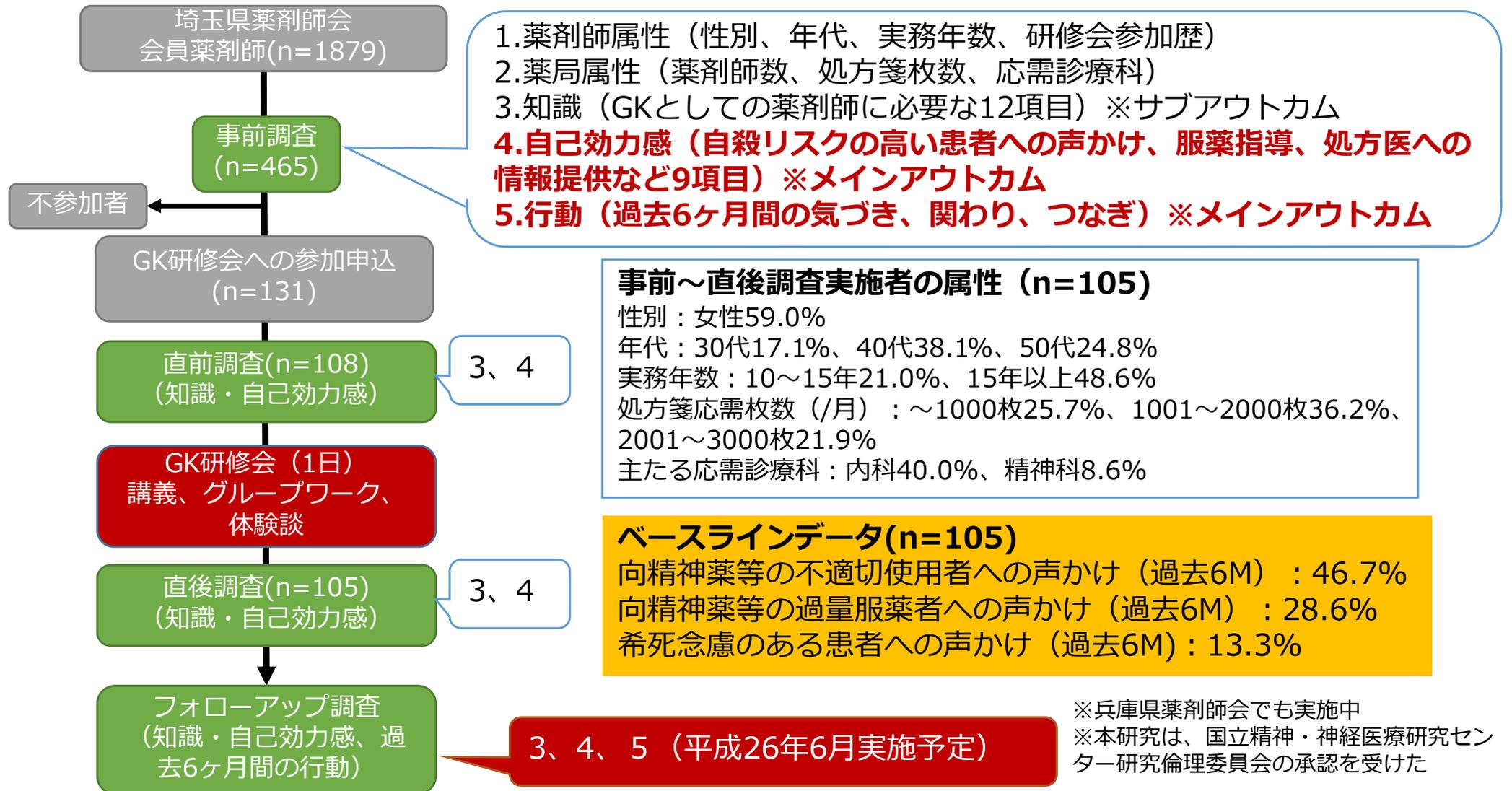


研究課題：「薬局を情報源とする処方薬乱用・依存の実態把握に関する研究」

研究担当者：嶋根卓也（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

共同研究機関：日本薬剤師会、埼玉県薬剤師会、兵庫県薬剤師会

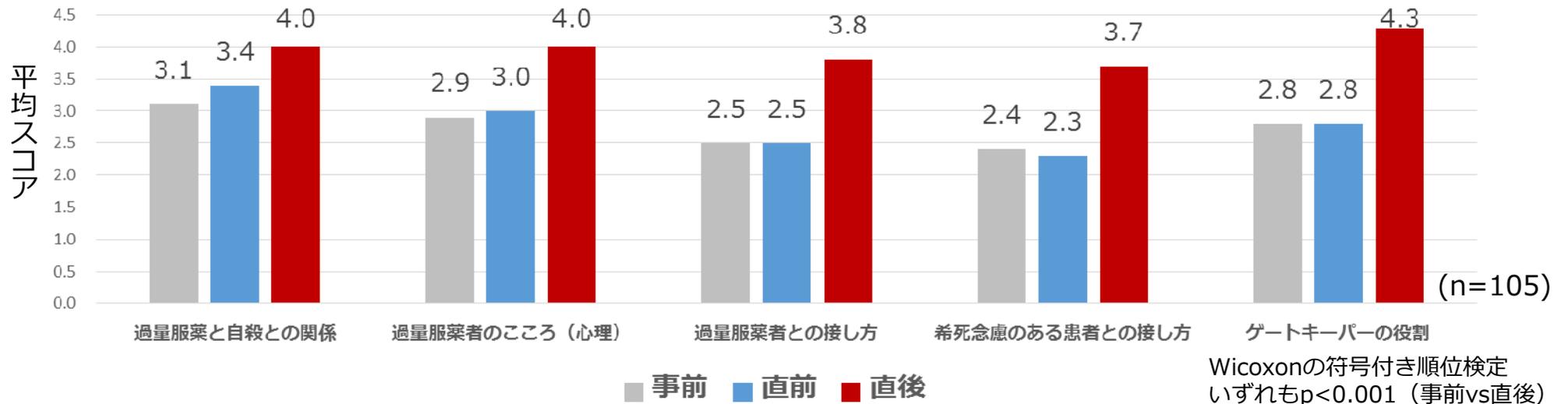
研究目的：向精神薬の乱用（過量服薬を含む）・依存に重点を置いたゲートキーパー研修会を地域の薬剤師に対して実施し、研修会が薬剤師の知識・態度・行動に与える影響を検証することで、ゲートキーパーとしての薬剤師の機能に関する知見を得ること。



研究事業名：平成25年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）

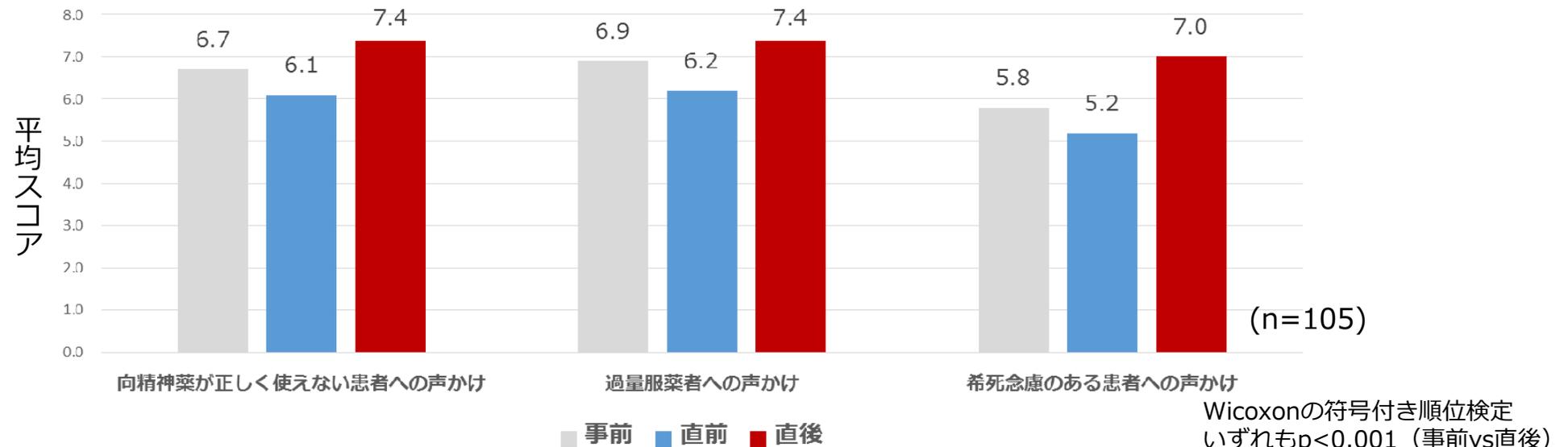
「薬物乱用・依存状況の実態把握と当事者とその家族に対する支援に関する研究（研究代表者：和田清）」

ゲートキーパーに関わる知識スコア（1～5点）



事前から直前の変化はみられないが、研修会直後に知識スコアが上昇。
ゲートキーパー研修会で取り上げた「過量服薬者」、「希死念慮ある患者」との接し方が顕著に上昇。

自殺リスクの高い患者への「声かけ」（自己効力感スコア、1～10点）



事前から直前にかけて、スコアが若干下がるものの、研修会直後に知識スコアが上昇。
ロールプレイなどを取り入れたグループワークの効果が現れた可能性が示唆。

現段階でのまとめ

- 薬剤師向けのGK研修会を実施し、3時点（事前、直前、直後）でデータを収集したところ以下の知見が得られた。
 - 1.参加者の「過量服薬者」や「希死念慮ある患者」との接し方などの知識スコアは、事前～直前は変わらず、直後に有意に上昇した。
 2. 自殺リスクの高い患者への「声かけ」に対する自己効力感 は、事前から直前にかけて若干下がるものの、直後では有意に上昇した。
- **以上より、GK研修会に参加した薬剤師に関しては、研修会参加により、GKとしての知識や自己効力感が飛躍的に上昇する可能性が高い。**
- 今後は、フォローアップ調査を実施し、知識や自己効力感の定着具合を調べるとともに、実際の行動（気づき、関わり、つながり）の変化を調べ、ゲートキーパー研修会の効果を検証する。